

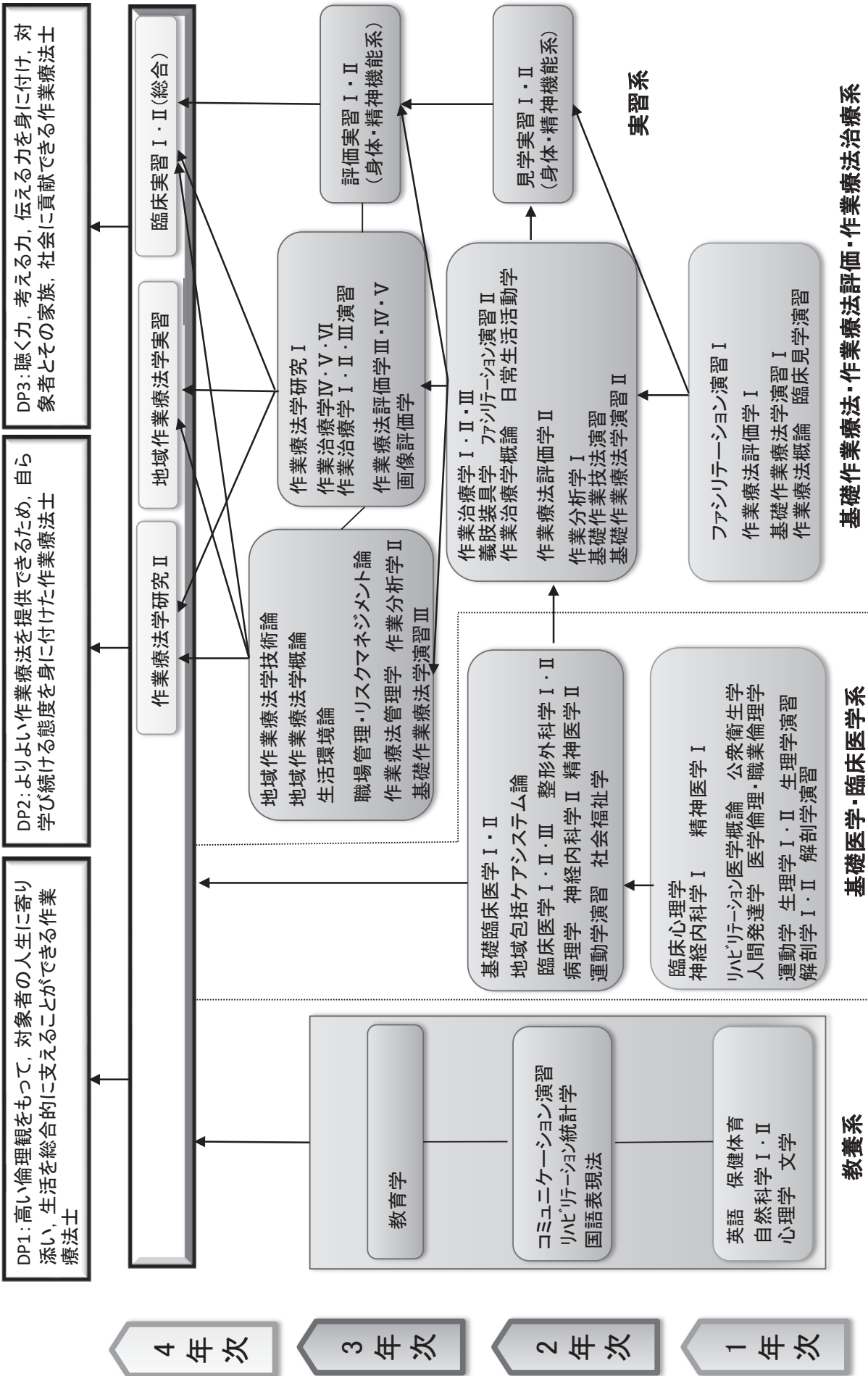
作業療法学科 カリキュラム

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	2	30							2	30		14
		文学	2	30							2	30		
		国語表現法			2	30					2	30		
		自然科学Ⅰ	2	30							2	30	物理学・数学系	
		自然科学Ⅱ	2	30							2	30	生物学系	
		英語	2	30							2	30		
		保健体育	1	30							1	30	講義・実技	
		教育学					2	30			2	30		
		リハビリテーション統計学			2	30					2	30		
		コミュニケーション演習			2	60					2	60		
基礎分野	小計	11	180	6	120	2	30	0	0	19	330		14	
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	4	60							4	60		12
		解剖学Ⅱ	4	60							4	60		
		解剖学演習	1	30							1	30		
		生理学Ⅰ	4	60							4	60		
		生理学Ⅱ	4	60							4	60		
		生理学演習	1	30							1	30		
		運動学	4	60							4	60		
		運動学演習			1	30					1	30		
		人間発達学	2	30							2	30		
	疾病と障害の成り立ち 及び 回復過程の促進	病理学			2	30					2	30		14
		神経内科学Ⅰ	2	30							2	30		
		神経内科学Ⅱ			2	30					2	30		
		精神医学Ⅰ	2	30							2	30		
		精神医学Ⅱ			2	30					2	30		
		臨床心理学	2	30							2	30		
		整形外科学Ⅰ			2	30					2	30		
		整形外科学Ⅱ			2	30					2	30		
		基礎臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	薬学・画像	
		臨床医学Ⅰ			2	30					2	30	外科学・脳神経外科学	
臨床医学Ⅱ			2	30					2	30	内科学・小児科学			
臨床医学Ⅲ			2	30					2	30	一般臨床医学			
保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30							2	30		4	
	社会福祉学			1	15					1	15			
	医学倫理・職業倫理学	2	30							2	30			
	公衆衛生学	1	15							1	15			
	地域包括ケアシステム論			2	30					2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む		
専門基礎分野	小計	35	555	24	375	0	0	0	0	59	930		30	

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数	時間数	備考	厚生労働基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専 門 分 野	基礎作業療法学	作業療法概論	1	30							1	30		5
		作業分析学Ⅰ			1	30					1	30		
		作業分析学Ⅱ					1	30			1	30		
		基礎作業技法演習			2	60					2	60		
		臨床見学演習	1	30							1	30		
		基礎作業療法学演習Ⅰ	2	60							2	60		
		基礎作業療法学演習Ⅱ			2	60					2	60		
		基礎作業療法学演習Ⅲ					1	30			1	30		
	作業療法管理学	職場管理・リスクマネジメント論					1	30			1	30		2
		作業療法管理学					1	30			1	30	作業療法教育及び職業倫理含む	
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	30							1	30		5
		作業療法評価学Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法評価学Ⅲ					2	60			2	60		
		作業療法評価学Ⅳ					1	30			1	30		
		作業療法評価学Ⅴ					1	30			1	30		
		画像評価学					1	30			1	30		
	作業療法治療学	作業療法治療学概論			1	30					1	30		19
		作業療法治療学Ⅰ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅰ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅱ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅱ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅲ			1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅲ演習					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅳ					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅴ					2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅵ					1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		日常生活活動学			1	30					1	30		
		義肢装具学			1	30					1	30		
		ファシリテーション演習Ⅰ	1	30							1	30		
		ファシリテーション演習Ⅱ			1	30					1	30		
作業療法学研究Ⅰ						1	30			1	30			
作業療法学研究Ⅱ									1	40	1	40	卒業論文作成含む	
地域作業療法学	地域作業療法学概論					1	30			1	30		4	
	生活環境論					2	60			2	60			
	地域作業療法学技術論					1	30			1	30			
臨床実習	見学実習Ⅰ(身体機能系)			1	40					1	40		22	
	見学実習Ⅱ(精神機能系)			1	40					1	40			
	評価実習Ⅰ(身体機能系)					3	120			3	120			
	評価実習Ⅱ(精神機能系)					3	120			3	120			
	臨床実習Ⅰ(総合)								8	360	8	360		
	臨床実習Ⅱ(総合)								8	360	8	360		
	地域作業療法学実習								1	40	1	40		
専門分野	小計	6	180	15	470	31	990	18	800	70	2440		57	
	総計	52	915	45	965	33	1020	18	800	148	3700		101	

作業療法学科カリキュラムツリー

2020.3.2



DP1: 高い倫理観をもって、対象者の人生に寄り添い、生活を総合的に支えることができる作業療法士

DP2: よりよい作業療法を提供できるため、自ら学び続ける態度を身に付けた作業療法士

DP3: 聴く力、考える力、伝える力を身に付け、対象者とその家族、社会に貢献できる作業療法士

3 年 次

令和5年度 前学期

時間割

作業療法学科 3年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	作業療法学研究 I 高木	作業療法治療学 V 田河	教育学 石村	基礎作業療法学 演習 III 矢形	作業療法治療学 IV 満永, 益満
2	10:40~ 12:10	作業療法治療学 I 演習 渕野, 松本		生活環境論 田河 地域作業療法学技術論 田河	作業療法治療学 I 演習 渕野, 松本	画像評価学 高木, OT講師
3	13:10~ 14:40	作業療法評価学 III 松本, 矢形	地域作業療法学技術論 田河	作業療法治療学 II 演習 高木 作業療法管理学 西村	作業療法治療学 III 演習 矢形	職場管理・ リスキミング論 青山
4	14:50~ 16:20	作業療法治療学 VI 渕野, 池田				

令和5年度 後学期

時間割

作業療法学科 3年

		月	火	水	木	金
1	9:00~ 10:30	作業療法治療学 IV 満永	作業療法評価学 V 田河	作業療法評価学 III 満永, 高木, 田河	生活環境論 田河	地域作業療法学概論 田河
2	10:40~ 12:10					
3	13:10~ 14:40	作業療法評価学 IV 渕野, OT講師			作業分析学 II 高木, 渕野 池田, 川口	
4	14:50~ 16:20					

※「時間割」は変更されることがあります。

目次：作業療法学科 3 年次

教育学	173
作業分析学Ⅱ	174
基礎作業療法学演習Ⅲ	175
職場管理・リスクマネジメント論	176
作業療法管理学	177
作業療法評価学Ⅲ	178
作業療法評価学Ⅳ	180
作業療法評価学Ⅴ	181
画像評価学	182
作業療法治療学Ⅰ演習	183
作業療法治療学Ⅱ演習	184
作業療法治療学Ⅲ演習	185
作業療法治療学Ⅳ	186
作業療法治療学Ⅴ	187
作業療法治療学Ⅵ	188
作業療法学研究Ⅰ	189
地域作業療法学概論	190
生活環境論	191
地域作業療法学技術論	192
評価実習Ⅰ（身体機能系）	193
評価実習Ⅱ（精神機能系）	194

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	教 育 学
代 表 講 師	石 村 秀 登 (所属：熊本県立大学共通教育センター)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15回(30時間)
授 業 概 要	教育は、人間がこの社会の中で存在するために必要不可欠な営みである。教育のはたらきの基礎を学び、教育のさまざまな姿を知る。				
到 達 目 標	社会的・文化的背景をふまえた人間理解を目指し、医療と教育との関わりについて考察することができるようにする。				
成績評価の方法と基準	学期末試験で評価する。				
テキスト・教材等	テキストは使用しない。印刷資料、映像資料などをその都度用意する。				
回 数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション：教育学とは何か				
第2回	教育の必要性と可能性①：野性の少年				
第3回	教育の必要性と可能性②：遺伝と環境				
第4回	教育の目的：何のために教育するのか				
第5回	教育の歴史と思想①：わが国の教育の歴史と思想①				
第6回	教育の歴史と思想②：わが国の教育の歴史と思想②				
第7回	教育の歴史と思想③：西洋の教育の歴史と思想				
第8回	教育の現状①：学校教育の制度と内容				
第9回	教育の現状②：学校教育の課題				
第10回	教育の現状③：家族と教育				
第11回	医療と教育①：科学の発展と教育				
第12回	医療と教育②：教育学における人間学的見方				
第13回	特別支援教育①：障がいと教育				
第14回	特別支援教育②：特別支援教育の現状と歴史				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	作業分析学Ⅱ
代表講師	高木勝隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回（30時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業分析の視点や考え方について講義し、作業における生物的、心理的、社会的、文化的関係を含めた包括的作業分析と限定的作業分析の演習を行う。				
授業概要	作業分析及び作業心理学の概要、人間工学の手法について講義を行い、包括的作業分析と限定的作業分析方法を用い演習を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者に適応した作業と作業療法治療に用いる作業活動について、運動学的と人間工学的視点、作業療法独自の理論を基盤として述べることができる。 ・作業学における生物的、心理的、社会的、文化的関係まで含めた包括的作業分析と限定的作業分析について説明することができる。 ・日常生活活動及び作業について、分析機器や評価尺度を活用し分析することができる。 ・作業療法士が用いる作業活動とその治療的意義を基に分析することができる。 ・分析した内容を報告することができる。 				
成績評価の方法と基準	レポート（20%）、筆記試験（30%）、発表（50%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第1巻 作業療法概論』、『作業療法学全書 第2巻 基礎作業学』、『基礎運動学』、『計測法入門 計り方、計る意味』、『臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	作業療法における作業：作業の定義、分類、人間と作業				渕野浩二
第2回	作業学と作業療法についての定義・分類：作業療法の目的、対象、手段、作業の意味、作業バランス、作業的存在				〃
第3回	作業心理学：欲求と動因、動機づけ、適性、性格、興味、価値観				高木勝隆
第4回	作業心理学：疲労、適合と段階付け、指導法の一般的事項				〃
第5回	人間工学の手法：生理的機能の測定と評価、心理的機能に関する主観的調査と評価				池田・川口
第6回	作業分析：還元主義的作業分析、包括的作業分析、限定的作業分析、各種治療理論と作業分析				〃
第7回	作業分析：分析機器（重心動揺計、筋電図、三次元動作解析装置）				〃
第8回	作業分析：作業分析計画の作成				高木・渕野 池田・川口
第9回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				〃
第10回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				〃
第11回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				〃
第12回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				〃
第13回	作業分析演習：日常生活活動および作業分析				〃
第14回	作業分析演習：レポート作成および報告				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	基礎作業療法学演習Ⅲ
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	精神障害領域における作業療法に携わった経験のある教員が、精神障害を持つ対象者に対する作業療法を実施するために必要な基礎的知識を講義する。				
授 業 概 要	作業療法場面において必要な臨床医学（精神医学、臨床心理学）の基礎的知識を講義・演習を通して学ぶ。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各疾患の特徴を説明することができる。 2. 防衛機制について具体例を用いて説明することができる。 3. 心理療法・心理検査・学習理論・心理発達について、各内容を説明することができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験（80%）、小テスト（20%）				
テキスト・教材等	『標準理学療法学・作業療法学 精神医学』、 『PT・OT 国家試験 共通問題 できるもん・でたもん [臨床医学]』				
回 数	授 業 内 容				
第1回	精神医学① 精神機能の障害と精神症状について理解する (1)				
第2回	精神医学② 精神機能の障害と精神症状について理解する (2)				
第3回	精神医学③ 統合失調症 (1)				
第4回	精神医学④ 統合失調症 (2)				
第5回	精神医学⑤ 気分障害				
第6回	精神医学⑥ 成人のパーソナリティおよび行動の障害				
第7回	精神医学⑦ 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群				
第8回	精神医学⑧ 精神作用物質使用による精神および行動の障害				
第9回	精神医学⑨ 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害				
第10回	臨床心理学① 防衛機制				
第11回	臨床心理学② 心理療法				
第12回	臨床心理学③ 心理検査 (1)				
第13回	臨床心理学④ 心理検査 (2)				
第14回	臨床心理学⑤ 学習理論, 心理発達				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法管理学	科目名	職場管理・リスクマネジメント論
代表講師	青山和美(所属:にしくまもと病院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期:15回(30時間)
授業概要	健全な組織運営に必要な労務・人・医療安全・報酬・情報等の管理について、法・制度や倫理の視点から構造を学習する。また、医療安全管理については、院内感染や医療事故等を未然に防ぐ具体的対策を考え、演習を通して、より実践的に学ぶ。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各管理の目的について説明ができる。 ・安全管理の目的について説明ができる。 ・予見したリスクや対策について考えを発言できる。 ・学生生活や臨床実習時に、安全管理に基づいた行動がとれる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	テキスト:リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版 配布資料:使用教材)リハビリテーションリスク管理ハンドブック、訪問リハ危険予知トレーニング、他				
回数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション、組織管理の概論				
第2回	労務管理				
第3回	人の管理、人材育成、人事考課				
第4回	施設基準、診療・介護報酬				
第5回	業務の流れ、第三者評価、感染管理、記録の管理				
第6回	個人情報管理、臨床実習性の教育				
第7回	リハビリテーション医療における安全管理(リスク管理)の概論:医療の質、基本的人権				
第8回	安全管理の環境整備、職員教育				
第9回	アクシデント発生時の対応、KYT、KYT演習				
第10回	根本原因分析法(RCA)、RCA演習				
第11回	運動負荷に伴う実施基準、疾患毎の急変予測				
第12回	安全対策のまとめ:事象別のリスクと対策				
第13回	安全対策のまとめ:医療事故事例から予見できるリスクを考える				
第14回	安全対策のまとめ:KYT演習(医学的リスク・接遇に関するリスク・連携に関するリスク)				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法管理学	科目名	作業療法管理学
代表講師	西村 慈子 (所属：水俣市特別職)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
授業概要	より質の高い作業療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度の理解、マネジメント能力を養うとともに、作業療法倫理、作業療法教育についての理解を深める。水俣市特別職として政策策定、現役大学院生、福岡市科学館での受賞、産学連携教育イノベーター育成プログラムを修了した教員により、実務経験を活かし体験的に学修する授業である。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療職の一員としての作業療法倫理、作業療法教育、法律、管理について記述できる。 2. 社会課題・地域課題に向き合い、多様な文化や価値観に配慮し、プレゼンテーションを行なう事ができる。 3. 社会情勢の変化に関心を持ち、コミュニケーション能力や主体性を発揮し、成果物を生成する事ができる。 				
成績評価の方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> ①学習ポートフォリオ、学習テーマに沿った川柳 (20%) ②プレゼンテーション (20%) ③定期試験 (40%) ④リフレクションレポート (20%) ①～④の取得点数が60点以上であれば単位取得と評価する。				
テキスト・教材等	「作業療法管理学入門 第2版」大庭潤平編 医歯薬出版 2021 「空間×ヘルスケア 2030」日経BP/Beyond Health 総合研究所 2021				
回数	授 業 内 容				
第1回	オリエンテーション、シラバス説明、イントロダクション～近未来を知る、未来の変革者になろう！マネジメント			第1章 作業療法とマネジメント P2～P10	
第2回	組織、病院組織における作業療法の役割			第2章 組織の成り立ちとマネジメント P12～P22	
第3回	情報管理、チーム医療・多職種連携、コミュニケーションスキル			第3章 情報のマネジメント P24～P34	
第4回	医療サービス、役割・責任			第4章 医療サービスのマネジメント 第9章 作業療法の役割と責任 P36～P46、P108～P116	
第5回	社会保障制度 医療保険、介護保険、障がい者福祉			第11章 作業療法をとりまく諸制度① P132～P147	
第6回	地方創生プログラム演習 アイデア創出のプランニング①			第11章 作業療法をとりまく諸制度② P132～P147	
第7回	地方創生プログラム演習 アイデア創出のプランニング②			第11章 作業療法をとりまく諸制度③ P132～P147	
第8回	新人教育、人材育成 作業療法士のキャリアデザイン			第6.7章 マネジメント①② 第13章 キャリア開発 P66～P76、P78～P88、P162～P174	
第9回	業務における物のマネジメント 実践からの学び			第6章 マネジメント② 第8章～実践からの学び P70～P73、P90～P105	
第10回	作業療法倫理～職業倫理			第10章 職業倫理 P118～P129	
第11回	アクシデント、インシデント、医療過誤、ヒューマンエラー			第5章 医療安全マネジメント P48～P63	
第12回	作業療法教育～臨床実習の位置づけ、意味、実習規約 実習目的、提出課題・指導要項			第12章 臨床実習の理解と管理体制 第9章 役割と職域 第10章 職業倫理 P150～160、P108～116、P118～129	
第13回	社会、地域課題解決に向けての成果発表会、プレゼンテーション 「歴史と伝統」「愛と希望」の熊リハ作業療法学科！発信			<ul style="list-style-type: none"> ・より強く、より賢く、より遅しく、生き抜くために、最新の世界の動向や、自分がワクワクするものに触れる機会を、SNSや新聞からも持ちましょう。 ・知的好奇心に目を向け、楽しいワクワクする時間、リフレッシュできる時間を多く持ちましょう。 	
第14回	社会貢献、地域貢献の実践 パブリックコメント提出、アイデア創出、各省庁、企業への応募				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学Ⅲ
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 満 永 晴 美 (所属：山鹿温泉リハビリテーション病院)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法業務に携わった経験を持つ教員等が、身体障害領域・精神障害領域・職業関連活動・老年期障害領域・発達障害領域において、作業療法評価における基礎的な考え方及び使用される検査内容と検査主義について講義する。				
授業概要	各領域、疾患に対する評価に必要な知識や技術を講義・演習を通して学ぶ。				
到達目標	1. 作業療法評価における基礎的な考え方を習得することができる。 2. 作業療法評価に使用される検査内容を理解し説明することができる。 3. 作業療法評価に使用される各検査技法を習得することができる。				
成績評価の方法と基準	<ul style="list-style-type: none"> ・前期：第1回～第10回：小テスト(30%)、学習ポートフォリオ(10%)、レポート(20%)、実技試験(40%) 第11回～14回：筆記試験(100%) ・後期：第16回～21回：筆記試験(75%)、レポート(25%) 第22回～25回：筆記試験(100%) 第26回～29回：筆記試験(100%) 				
テキスト・教材等	『作業療法学全書第4巻 作業治療学1 身体障害』、『作業療法学全書第5巻 作業治療学2 精神障害』、『作業療法学全書第7巻 作業治療学4 老年期』、『作業療法学全書第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害』、『図解 作業療法技術ガイド』、『ベッドサイドの神経の診かた』、『標準作業療法学専門分野』作業療法評価学』、『臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	Br. stage、上田の1 2段階グレード法、協調性検査、脳神経検査、平衡機能検査、機能的筋力検査 他				松本明人
第2回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第3回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第4回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第5回	VPTA、SPTA-R、CAT、TMT、BADS、RBMT、三宅式記銘力検査 他				〃
第6回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第7回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第8回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第9回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第10回	身体障害領域の評価(中枢神経障害・高次脳機能障害)演習				〃
第11回	気分と疲労のチェックリスト・ウォッチングリスト・作業遂行能力の評価他 演習				矢形あゆみ
第12回	気分と疲労のチェックリスト・ウォッチングリスト・作業遂行能力の評価他 演習				〃
第13回	精神障害者ケアアセスメント他 演習				〃
第14回	精神障害者ケアアセスメント他 演習				〃
第15回	試 験				
第16回	身体障害領域の評価(運動器障害)演習：血圧、脈拍測定、STEF、SW-T、握力、ピンチ力、2PD、手指機能検査 他				高木勝隆
第17回	身体障害領域の評価(運動器障害)演習：血圧、脈拍測定、STEF、SW-T、握力、ピンチ力、2PD、手指機能検査 他				〃
第18回	一般職業適性検査(GATB)、職務分析				〃

回数	授業内容	担当講師
第19回	一般職業適性検査、職務分析	〃
第20回	一般職業適性検査、職務分析	〃
第21回	一般職業適性検査、職務分析	〃
第22回	老年期障害領域の評価（観察のポイント）	田河和代
第23回	老年期障害領域の評価	〃
第24回	老年期障害領域の評価 演習	〃
第25回	老年期障害領域の評価 演習	〃
第26回	発達障害領域の評価・演習 一般的発達スクリーニング検査・WISC-IV KABC- II・PED I 他	満永晴美
第27回		
第28回	発達障害領域の評価・演習 JMAP・日本感覚イベントリー 日本版感覚プロファイル・グッドイナフ 他	〃
第29回		
第30回	試 験	

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学Ⅳ
代表講師	渕野 浩 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、身体障害領域・精神障害領域・老年期障害領域において心身機能と構造、活動と参加、背景因子との関連性をアセスメントシートを通し、作業療法評価の視点や考え方について解説する。				
授業概要	事例(脳血管障害、統合失調症、認知症等)を用い、作業療法評価の視点や評価結果から心身機能と構造、活動と参加、背景因子との関連性を考察し、熊リハ版アセスメントシートを通し講義・演習を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各領域の障害評価について客観的なデータに基づいて分析することができる。 ・アセスメントシートに従って障害を構造化し課題に対して作業療法目標を設定することができる。 ・作業療法目標に沿って、より具体的な作業療法実践プログラムを計画することができる。 				
成績評価の方法と基準	・出席点 (10%)、熊リハ版アセスメントシート課題提出 (90%)				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害』、『作業療法学全書 第5巻 作業治療学2 精神障害』、『作業療法学全書 第7巻 作業治療学4 老年期』、『作業療法学全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害』、『標準作業療法学「作業療法評価学」』、『図解作業療法技術ガイド』、『作業療法マニュアル 57 生活行為向上マネジメント 改訂版』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	身体障害の事例検討 (脳血管障害)				渕野浩二 池田裕輔
第2回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第3回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第4回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第5回	身体障害領域の評価 まとめ				〃
第6回	精神障害の事例検討 (統合失調症)				矢形あゆみ
第7回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第8回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第9回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第10回	精神障害領域の評価 まとめ				〃
第11回	高齢期障害領域の事例 (認知症)				田河 和代
第12回	認知症の評価 まとめ				〃
第13回	認知症の評価 まとめ				〃
第14回	認知症の評価 まとめ				〃
第15回	認知症の評価 まとめ				〃

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学V
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法の実務経験のある教員が、身体障害領域・精神障害領域における作業療法評価を模擬患者に実施できるよう指導する。				
授 業 概 要	OSCE (客観的臨床能力評価) とは、「技能・態度」の医学教育における客観的能力評価である。臨床実習開始前 OSCE にて身体障害領域、精神障害領域における手技の確認を行う。				
到 達 目 標	I . 精神障害領域におけるコミュニケーション技法、面接技法を模擬患者に実践することができる。 II . 身体障害領域における関節可動域測定、筋力測定、形態測定、感覚検査、反射検査を模擬患者に実践することができる。				
成績評価の方法と基準	実技習熟度確認テスト (100%)				
テキスト・教材等	『PT・OTのための臨床技能とOSCE (DVD付) コミュニケーションと解除・検査測定編』、『新・徒手筋力検査法 原著第10版』、『PT・OTのための測定評価 形態測定・感覚検査・反射検査』、『PT・OTのための測定評価 ROM測定』、『ベッドサイドの神経の診かた』、『作業療法の面接技術 -ストーリーの共有を目指して-』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	OSCE オリエンテーション				田河和代 専任講師
第2回	関節可動域測定 (上肢、手指、下肢)				〃
第3回	関節可動域測定 (上肢、手指、下肢) 実技試験				〃
第4回	筋力測定 (MMT 上肢、手指、下肢)				〃
第5回	筋力測定 (MMT 上肢、手指、下肢) 実技試験				〃
第6回	形態測定 (前腕周径、下肢長)				〃
第7回	形態測定 (前腕周径、下肢長) 実技試験				〃
第8回	感覚検査 (触覚検査、受動運動覚検査)				〃
第9回	感覚検査 (触覚検査、受動運動覚検査) 実技試験				〃
第10回	反射検査 (腱反射、病的反射)				〃
第11回	反射検査 (腱反射、病的反射) 実技試験				〃
第12回	コミュニケーション技法				〃
第13回	コミュニケーション技法実技試験				〃
第14回	療法士面接				〃
第15回	療法士面接実技試験				〃

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	画像評価学
代表講師	高木勝隆(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期:15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、身体障害領域・精神障害領域・老年期障害領域において、作業療法評価で必要となる画像情報の利用について解説する。				
授業概要	各領域、疾患に対する評価に必要な画像情報の利用について、講義・演習を通して学ぶ。				
到達目標	脳血管障害、脊髄損傷、内部障害(呼吸・循環)、整形外科関連障害、老年期障害、精神障害、難病他の画像情報を読み取ることがことができる。 脳血管障害、脊髄損傷、整形外科関連障害、内部障害(呼吸・循環)、老年期障害、精神障害、難病他の画像情報を作業療法評価と関連付けて説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害』、『作業療法学全書 第5巻 作業治療学2 精神障害』、『作業療法学全書 第7巻 作業治療学4 老年期』、『作業療法学全書 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害』、『図解作業療法技術ガイド』、『ベッドサイドの神経の診かた』、『標準作業療法学 専門分野』作業療法評価学』、『臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント』、『リハビリテーション医療に活かす画像のみかた 症例から学び障害を読み解く』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	脳血管障害				渕野浩二
第2回	脳血管障害				〃
第3回	脊髄損傷				〃
第4回	脊髄損傷				〃
第5回	内部障害(呼吸・循環)				池田裕輔
第6回	内部障害(呼吸・循環)				〃
第7回	難病・他				渕野浩二
第8回	難病・他				〃
第9回	整形外科関連障害				高木勝隆
第10回	整形外科関連障害				〃
第11回	老年期障害				田河和代
第12回	老年期障害				〃
第13回	精神障害				非常勤講師
第14回	精神障害				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学 I 演習
代表講師	松本明人(所属:前 熊本総合医療リハビリテーション学院) 渕野浩二(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期:30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	身体障害領域の病院での勤務経験のある作業療法士の教員がその経験を活かし、各疾患の作業療法評価およびゴール設定、作業療法アプローチの組み立てを指導する。				
授業概要	知識は予習で学習を行い、応用演習問題を用いてディスカッションを行いながら応用力を高める。中枢神経疾患の作業療法について作業療法評価計画とアプローチ方法をチーム基盤型学習(TBL)にて講義と演習を行う。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問題発見と問題解決のための学習計画を立てることができる。 2. 学習に必要な学習資源(文献・資料)を自分で適切なものを選択できるようになる。 3. 中枢疾患(脳血管障害、頭部外傷)、整形外科疾患(脊髄損傷・切断)等の各疾患の障害像を説明できる。 4. 各疾患の作業療法評価およびゴール設定を組み立てることができる。 5. 各疾患の作業療法アプローチを組み立てることができる。 				
成績評価の方法と基準	IRAT(25%)、TRAT(20%)、ピア評価(15%)、学習ポートフォリオ(10%)、応用演習問題(30%)				
テキスト・教材等	『作業療法全書 第4巻 作業治療学1 身体障害』、『作業療法全 第8巻 作業治療学5 高次脳機能障害』、『作業療法全書第9巻 作業技術学1 義肢装具学』、『図解 作業療法技術ガイド』、『病気がみえる〈vol.7〉脳・神経』、『脳卒中最前線 急性期の診断からリハビリテーションまで』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	脳血管障害の作業療法 ユニット1:急性期				松本明人
第2回	脳血管障害の作業療法 ユニット1:急性期				〃
第3回	脳血管障害の作業療法 ユニット1:急性期				〃
第4回	脳血管障害の作業療法 ユニット2:回復期				〃
第5回	脳血管障害の作業療法 ユニット2:回復期				〃
第6回	脳血管障害の作業療法 ユニット3:回復期				〃
第7回	脳血管障害の作業療法 ユニット3:回復期				〃
第8回	脳血管障害の作業療法 ユニット4:生活期				〃
第9回	脳血管障害の作業療法 ユニット4:生活期				〃
第10回	脳血管障害の作業療法 ユニット4:生活期				〃
第11回	脳血管障害の作業療法 ユニット5:高次脳機能障害(右半球)				〃
第12回	脳血管障害の作業療法 ユニット5:高次脳機能障害(右半球)				〃
第13回	脳血管障害の作業療法 ユニット5:高次脳機能障害(右半球)				〃
第14回	脳血管障害の作業療法 ユニット6:高次脳機能障害(左半球)				〃
第15回	脳血管障害の作業療法 ユニット6:高次脳機能障害(左半球)				〃
第16回	脳血管障害の作業療法 ユニット6:高次脳機能障害(左半球)				〃
第17回	脳血管障害の作業療法 ユニット7:頭部外傷				〃
第18回	脳血管障害の作業療法 ユニット7:頭部外傷				〃
第19回	脳血管障害の作業療法 ユニット7:頭部外傷				〃
第20回	脳血管障害の作業療法 ユニット7:頭部外傷				〃
第21回	頸髄損傷の作業療法 ユニット8:急性期				渕野浩二
第22回	頸髄損傷の作業療法 ユニット8:急性期				〃
第23回	頸髄損傷の作業療法 ユニット8:急性期				〃
第24回	頸髄損傷の作業療法 ユニット9:回復期				〃
第25回	頸髄損傷の作業療法 ユニット9:回復期				〃
第26回	頸髄損傷の作業療法 ユニット9:回復期				〃
第27回	上肢切断と作業療法 ユニット10:回復期				〃
第28回	上肢切断と作業療法 ユニット10:回復期				〃
第29回	上肢切断と作業療法 ユニット10:回復期				〃
第30回	上肢切断と作業療法 ユニット10:回復期				〃

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅱ演習
代表講師	松元義彦(所属:鹿児島赤十字病院) 高木勝隆(所属:熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期:30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	(松元)総合病院に勤務している作業療法士が、整形外科疾患に対する作業療法の経験を活かし講義する。 (高木)作業療法士として病院に勤務していた教員が、対象者の評価、治療、日常生活活動指導等の経験を活かし、主として整形外科疾患に対する作業療法に関する基本的知識について講義する。				
授業概要	作業療法の対象となる疾患のうち、主として整形外科関連の対象に対して、疾患の基礎知識と作業療法評価、治療について講義する。また、自助具やスプリントの製作実習を通して、必要な製作技術を講義する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関節リウマチの手指変形発生機序について説明することができる。 ・末梢神経損傷の基礎知識と作業療法評価、治療を説明することができる。 ・骨折、手指腱損傷、熱傷の基礎知識と作業療法評価、治療を説明することができる。 ・自助具及びスプリントを用いた技法についてその製作実習を通し理解し、技術を習得する。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第4巻 作業治療学1 身体障害』、『標準作業療法学 専門分野』作業療法評価学』、『標準整形外科学』、『基礎運動学』、『作業療法技術ガイド』、『手作り自助具の工作技術』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	関節リウマチに対する OT:変形の発生機序				高木勝隆
第2回	関節リウマチに対する OT:変形の発生機序				〃
第3回	末梢神経損傷:末梢神経損傷の基礎知識、発生機序、臨床症状、一般的治療				〃
第4回	末梢神経損傷:末梢神経損傷の基礎知識、発生機序、臨床症状、一般的治療				〃
第5回	末梢神経損傷:腕神経叢の解剖				〃
第6回	末梢神経損傷:各固有末梢神経損傷の概要				〃
第7回	末梢神経損傷:各固有末梢神経損傷の概要				〃
第8回	末梢神経損傷:各固有末梢神経損傷の概要				〃
第9回	末梢神経損傷:OT評価(評価の目的、神経機能評価、心理精神面の評価、社会面の評価)				〃
第10回	末梢神経損傷:OT評価(評価の目的、神経機能評価、心理精神面の評価、社会面の評価)				〃
第11回	末梢神経損傷:OT評価(評価の目的、神経機能評価、心理精神面の評価、社会面の評価)				〃
第12回	末梢神経損傷:OT治療(回復性及び非回復性の麻痺の治療、手の統合機能)				〃
第13回	末梢神経損傷:OT治療(回復性及び非回復性の麻痺の治療、手の統合機能)				〃
第14回	手指腱損傷:OT評価(検査方法の紹介と説明)				〃
第15回	手指腱損傷:OT治療(スプリント、ハンドセラピー)				〃
第16回	骨折:基礎知識(定義、種類と分類、症状、合併症、整復固定)				〃
第17回	骨折:OT評価(目的と留意点、固定・脱固定期間の治療)				〃
第18回	熱傷の基礎知識と OT:上皮の構造、熱傷の程度、OT評価、注意事項、OT治療、禁忌事項				〃
第19回	自助具:Ⅰ.自助具とは Ⅱ.自助具作製のプロセス				松元義彦
第20回	自助具:Ⅲ.自助具の実際(上肢機能障害と自助具適合の為のヒントとポイント)				〃
第21回	自助具:Ⅳ.自助具製作のプロセス				〃
第22回	自助具:Ⅴ.製作実習(リーチャー2種)				〃
第23回	自助具:Ⅴ.製作実習(リーチャー2種)				〃
第24回	スプリント:Ⅰ.装具の用語について Ⅱ.手の機能解剖、Ⅲ.装着目的 Ⅳ.分類 Ⅴ.材料と特性				〃
第25回	スプリント:Ⅵ.上肢の主な障害と使用スプリント Ⅶ.スプリントの力学的原則 Ⅷ.OTの役割 Ⅸ.スプリントの条件				〃
第26回	スプリント:X.製作について XI.処方について				〃
第27回	スプリント:XⅡ.製作実習(ring type splint/cock up splint)				〃
第28回	スプリント:XⅡ.製作実習(ring type splint/cock up splint)				〃
第29回	スプリント:XⅡ.製作実習(ring type splint/cock up splint)				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅲ演習
代表講師	矢形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30回 (60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	精神障がい領域における作業療法に携わった経験のある教員が、精神障がいを持つ対象者に対する作業療法を実施するために必要な知識・技術・態度について講義・指導する。				
授業概要	模擬事例を通し、臨床場面に沿った流れで、評価から作業療法実施まで行う。また、グループごとの疾患のまとめや、専門家・経験者の語りから、精神障がいについて理解を深める。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の事例について、情報の整理・必要な評価項目の列挙・実施・プログラム立案をグループおよび個人で行うことができる。 2. 各精神疾患の事例を通して、疾患の障害像を整理し、適切な作業療法をグループで説明することができる。 3. 経験者の語りを受容し、質問・意見を述べることができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (80%)、ピア評価 (20%)				
テキスト・教材等	『精神障害と作業療法』、『作業療法学全書 精神障害』、『ひとと集団・場』、『ひとと作業・作業活動』、『図解作業療法技術ガイド』、『標準理学療法学・作業療法学 精神医学』、『精神疾患の理解と精神科作業療法第2版』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	オリエンテーション 精神障がいに対する作業療法について・事例紹介 (統合失調症)				矢形あゆみ
第2回	事例 (統合失調症) との出会い				〃
第3回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を考える 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第4回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第5回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第6回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) の記録をもとに全体像を捉える				〃
第7回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) について記録する				〃
第8回	事例 (統合失調症) に対する作業療法評価を実施する 事例 (統合失調症) の記録をもとに全体像を捉える				〃
第9回	事例 (統合失調症) の焦点化				〃
第10回	事例 (統合失調症) の目標設定・作業療法計画立案				〃
第11回	事例 (統合失調症) の作業療法実施				〃
第12回	事例 (統合失調症) の作業療法実施				〃
第13回	気分障害の理解 (事例紹介および疾患の理解)				〃
第14回	気分障害に対する作業療法				〃
第15回	アルコール依存症・薬物依存症の理解 (事例紹介および疾患の理解)				〃
第16回	アルコール依存症・薬物依存症に対する作業療法				〃
第17回	境界性パーソナリティ障害の理解 (事例紹介および疾患の理解)				〃
第18回	境界性パーソナリティ障害に対する作業療法				〃
第19回	神経症性障害の理解 (事例紹介および疾患の理解)				〃
第20回	神経症性障害に対する作業療法				〃
第21回	摂食障害の理解 (事例紹介および疾患の理解)				〃
第22回	摂食障害に対する作業療法				〃
第23回	精神障がい作業療法の対象理解～経験者そして専門家としての立場から～「依存症」				非常勤講師
第24回	精神障がい作業療法の対象理解～経験者そして専門家としての立場から～「依存症」				〃
第25回	精神障がい作業療法の対象理解～現在の活動や経験から～「統合失調症」				〃
第26回	精神障がい作業療法の対象理解～現在の活動や経験から～「気分障害」				〃
第27回	精神障がい作業療法の対象理解～現在の活動や経験から～「気分障害」				〃
第28回	地域生活支援と作業療法「精神障がい者に対する地域における取り組み」				〃
第29回	地域生活支援と作業療法「精神障がい者に対する地域における取り組み」				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅳ
代表講師	益 満 美 寿 (所属：熊本保健科学大学) 満 永 晴 美 (所属：山鹿温泉リハビリテーション病院)				
授業方法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前・後期：30回(60時間)
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人間発達の過程と発達課題、発達障害に対する評価・治療及び援助の実践を学ぶ。また、発達障害における支援制度や地域における発達支援方法を学ぶ。 ・各疾患の臨床像をイメージでき、抱える課題を解決する為の作業療法評価・実践方法を想起できるようになる。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・人間発達の過程と発達課題、発達障害に対する評価・治療及び援助の実践を学ぶ。また、発達障害における支援制度や地域における発達支援方法を学ぶ。 ・各疾患の臨床像をイメージでき、抱える課題を解決する為の作業療法評価・実践方法を想起できるようになる。 				
評価成績の方法と基準	筆記試験(90%) レポート(10%)				
テキスト・教材等	『イラストでわかる発達障害の作業療法』、『イラストでわかる人間発達学』、『作業療法評価学』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	発達概念(発達の法則 / ライフステージ / 発達年齢課題)				益満美寿
第2回	心身機能の発達(運動の発達1)				〃
第3回	心身機能の発達(運動の発達2)				〃
第4回	心身機能の発達(姿勢反射 / 反応1)				〃
第5回	心身機能の発達(姿勢反射 / 反応2)				〃
第6回	心身機能の発達(上肢機能の発達)				満永晴美
第7回	心身機能の発達(感覚・知覚の発達)				〃
第8回	心身機能の発達(心理社会機能の発達)				〃
第9回	ADL・遊び・余暇活動の発達				〃
第10回	ADLの発達(口腔機能 / 食事動作の発達)				益満美寿
第11回	作業療法士の役割と実施場所・形態				満永晴美
第12回	児童福祉に関する法律・発達障害者支援法				益満美寿
第13回	発達理論と発達検査1				〃
第14回	発達検査2				〃
第15回	試 験				
第16回	発達障害とは / 特別支援教育の作業療法				満永晴美
第17回	自閉症スペクトラム障害の作業療法				〃
第18回	注意欠如多動性障害の作業療法				〃
第19回	学習障害の作業療法				〃
第20回	新生児疾患(NICU対象児) / 被虐待児への作業療法				〃
第21回	脳性麻痺の作業療法①				益満美寿
第22回	脳性麻痺の作業療法②				〃
第23回	脳性麻痺の作業療法③				〃
第24回	重症心身障害の作業療法				〃
第25回	食事動作・摂食・嚥下に困難さがある児への作業療法				〃
第26回	知的障害の作業療法①				〃
第27回	知的障害の作業療法②				〃
第28回	筋ジストロフィー症の作業療法				〃
第29回	二分脊椎・分娩麻痺の作業療法				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学V
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30回(60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	実務経験のある教員が、老年期障がいおよび認知症を有する高齢者に対する作業療法の基礎知識・評価・作業療法アプローチについて指導する。				
授 業 概 要	老年期障がいおよび認知症を有する高齢者に対する作業療法の基礎知識・評価・作業療法アプローチについて講義・演習を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢障がい者及び認知症を有する人の、心身機能の構造・活動・参加・背景因子など、総合的な生活機能と障がいを理解できる。 ・適切な評価方法を学習し、作業療法アプローチを構築することができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験(80%)、課題レポート(20%)				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第7巻 作業治療学4 老年期』、『認知症を持つ人への作業療法アプローチ 視点・プロセス・理論』、『病気がみえる (vol.7) 脳・神経』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	老年期作業療法の理念、高齢期の作業療法士の役割				田河和代
第2回	社会制度(保健・医療・福祉制度)、介護保険				〃
第3回	老年期の特徴(生活機能遂行要素：老化)				〃
第4回	老年期の特徴(生活機能遂行要素：老化)				〃
第5回	老年期の特徴(生活課題)				〃
第6回	老年期の特徴(老年期の課題)				〃
第7回	廃用症候群について				〃
第8回	加齢に伴う生理的变化、老年症候群				〃
第9回	老年期に注意すること、老年期の介護予防				〃
第10回	寝たきりと閉じこもりについて				〃
第11回	老年期の作業療法プロセス(評価からアプローチ)				〃
第12回	老年期のレクリエーションの考え方				〃
第13回	認知症の基礎知識：認知症の定義・MCIについて				〃
第14回	認知症の基礎知識：記憶とは？				〃
第15回	認知症の基礎知識：認知症の分類				〃
第16回	認知症の基礎知識：認知症の分類				〃
第17回	認知症の基礎知識：中核症状・BPSD				〃
第18回	認知症の行動心理学的症状(BPSDに対する具体的対応を考える)				〃
第19回	認知症の基礎知識：薬物療法・非薬物療法				〃
第20回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：認知症を持つ人へのアプローチ				〃
第21回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法のプロセス、多職種連携				〃
第22回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：評価				〃
第23回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：評価				〃
第24回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：評価				〃
第25回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の理論				〃
第26回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の理論				〃
第27回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の介入・技術				〃
第28回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の介入・技術				〃
第29回	認知症をもつ人への作業療法のプロセス：作業療法の介入・技術				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学VI
代表講師	後藤 啓士郎 (所属：済生会熊本病院) 瀧野 浩二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授業方法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、循環器疾患の病態・症候から作業療法評価ならびに治療的介入に関する基本的知識と手法について講義する。				
授業概要	内部障害に対する作業療法に必要な病態や治療の基礎知識及びリスク管理に関する知識と技術について講義を行う。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心疾患、呼吸器疾患、がんの臨床像について述べることができる。 ・心疾患、呼吸器疾患、がんのリスク管理について説明することができる。 ・心疾患、呼吸器疾患、がんに対するリハビリテーションと作業療法について説明することができる。 ・喀痰吸引の目的と方法、手順について説明することができる。 				
成績評価の方法と基準	・筆記試験 (100%)				
テキスト・教材等	『作業療法テキスト内部障害作業療法学 呼吸・循環・代謝』、『作業療法技術ガイド第3版 (文光堂)』、『病気がみえる vol.2 循環器』、『病気がみえる vol.4 呼吸器』				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	心疾患の作業療法①：循環器系の構造と機能について				池田裕輔
第2回	心疾患の作業療法②：循環器疾患の病態 (心不全・心筋梗塞) について				〃
第3回	心疾患の作業療法③：心疾患の評価 (心電図) とリスク管理				〃
第4回	心疾患の作業療法④：心疾患に対する運動処方と作業療法評価について				〃
第5回	心疾患の作業療法⑤：心疾患の作業療法 (急性期)				〃
第6回	心疾患の作業療法⑥：心疾患の作業療法 (回復期)				〃
第7回	呼吸器疾患の作業療法①：呼吸のメカニズム、解剖生理				非常勤講師
第8回	呼吸器疾患の作業療法②：喀痰吸引				瀧野浩二 池田裕輔 非常勤講師
第9回	呼吸器疾患の作業療法③：呼吸器疾患のリハビリテーション概要と生活指導				〃
第10回	呼吸器疾患の作業療法④：呼吸器疾患の病態				後藤啓士郎
第11回	呼吸器疾患の作業療法⑤：急性期の呼吸管理				〃
第12回	がんの作業療法①：がんリハビリテーションの概要				〃
第13回	がんの作業療法②：がんリハビリテーションに対する作業療法士の役割				後藤啓士郎 和田 真
第14回	がんの作業療法③：がんリハビリテーションに対する作業療法士の役割				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法学研究 I
代 表 講 師	高 木 勝 隆 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として病院等に勤務していた教員が、学科発表等の経験を活かし、研究計画書作成に関する基本的知識について講義する。				
授 業 概 要	作業療法における研究について、基本的事項、研究計画書作成について講義する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法における研究について、その位置づけや意味について説明できる。 ・研究の方法や種類について説明できる。 ・4年次の作業療法学研究Ⅱで行う研究計画書を作成できる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	<ul style="list-style-type: none"> ・『《標準作業療法学 専門分野》作業療法研究法』 ・配布資料 				
回 数	授 業 内 容				
第1回	研究とは				
第2回	研究の流れ 研究疑問を立てる．研究疑問を解決する方法				
第3回	研究の種類				
第4回	文献研究				
第5回	調査研究				
第6回	調査研究 演習				
第7回	実験研究				
第8回	実験研究 演習				
第9回	事例研究				
第10回	研究における倫理 インフォームドコンセント				
第11回	論文の構成と内容の表し方				
第12回	作業療法研究計画書作成 テーマ選定				
第13回	作業療法研究計画書作成 文献検索				
第14回	作業療法研究計画書作成 文献レビュー				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	地域作業療法学	科目名	地域作業療法学概論
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 非常勤講師				
授業方法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15回 (30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、地域作業療法に必要な考え方、支援方法について指導する。				
授業概要	地域リハビリテーションの概念、各領域における地域生活支援、地域作業療法の実際についての講義				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域リハビリテーションの概念、地域作業療法の役割を説明することができる。 ・各領域の地域生活支援を考察し地域作業療法について説明することができる。 				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (20%) 各課題レポート (80%)				
テキスト・教材等	『《標準作業療法学 専門分野》地域作業療法学 第4版』、配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	地域で生活するという事				田河和代
第2回	社会保障制度外の作業療法対象者について考える				〃
第3回	地域作業療法の基本、概念と理論				〃
第4回	精神障がい領域における地域課題				木村伊津子
第5回	精神障がい領域での地域課題・就労支援				〃
第6回	身体障がい領域における地域課題				非常勤講師
第7回	身体障がい領域での地域作業療法				〃
第8回	発達障がい領域における地域課題				〃
第9回	発達障がい領域での地域作業療法				〃
第10回	老年期領域における地域課題				〃
第11回	老年期領域での地域作業療法				〃
第12回	ACP (アドバンスケアプランニング) を踏まえた看取りケア				野尻 明子
第13回	地域包括ケアにおける看取り支援と作業療法				〃
第14回	地域包括ケアにおける看取り支援と作業療法				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	地域作業療法学	科目名	生活環境論
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	2	学期・回数	前期：30回 (60時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、リハビリテーションや作業療法の立場から、対象者の生活をイメージした住宅改修や福祉用具の適応について指導する。				
授 業 概 要	対象者の自立した生活を支援するための福祉用具や住宅改修等について、視聴覚教材等も使用し、講義・演習を通して授業する。				
到 達 目 標	障害者、高齢者における生活環境の重要性を理解し、リハビリテーションや作業療法の立場から、対象者の生活をイメージした住宅改修や福祉用具の適応について説明することができる。				
成績評価の方法と基準	各課題レポート (100%)				
テキスト・教材等	『福祉住環境コーディネーター検定試験2級公式テキスト』、『テクニカルエイド 生活の視点で役立つ選び方・使い方』、『福祉機器選び方・使い方セミナー副読本 2021年度版』、『作業療法学全書 第10巻 作業療法技術学 2 福祉用具の使い方、住環境整備』、DVD他				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	福祉用具の概要、作業療法と福祉用具				田河 和代
第2回	家事、炊事関連福祉用具				〃
第3回	家事、炊事関連福祉用具 片手で卵焼きを作ろう				〃
第4回	嚥下障害と食事の関係				〃
第5回	家事、炊事関連福祉用具 疾患と福祉用具の関連を考える				〃
第6回	家事、炊事関連福祉用具 疾患と福祉用具の関連を考える				〃
第7回	ベッド関連、リフト				高木 勝隆
第8回	車椅子操作、トランスファーボード、スライディングシートなど				田河 和代
第9回	車椅子操作、トランスファーボード、スライディングシートなど				〃
第10回	車椅子操作、トランスファーボード、スライディングシートなど				〃
第11回	車椅子・シーティング 実技				野尻 明子
第12回	車椅子・シーティング 実技				〃
第13回	車椅子・シーティング 実技				〃
第14回	車椅子・シーティング 実技				〃
第15回	食事、更衣、整容に関する自助具				松元 義彦
第16回	移動補助装具 (歩行器・杖など)				田河 和代
第17回	ICT 関連機器：ICT デバイスについて				非常勤講師
第18回	ICT 関連機器：ロボティクスについて				〃
第19回	ICT 関連機器：AI、アプリケーション、システム、ソフトウェアについて				〃
第20回	排泄関連福祉用具とトイレの関係、他				田河 和代
第21回	排泄関連福祉用具とトイレの関係、他				〃
第22回	入浴関連福祉用具と浴室の関係、他				〃
第23回	入浴関連福祉用具と浴室の関係、他				〃
第24回	自動車補助装置と特殊車両 福祉車両見学				〃
第25回	住環境整備の基本技術と実践に伴う知識				〃
第26回	住環境整備のとらえ方・手法				〃
第27回	生活環境マネジメントと作業療法士の役割、他				非常勤講師
第28回	ケアマネジメントと福祉用具・住宅改修 グループワーク (プランニング演習)				〃
第29回	ケアマネジメントと福祉用具・住宅改修 グループワーク (プランニング演習)				〃
第30回	ケアマネジメントと福祉用具・住宅改修 グループワーク (プランニング演習)				〃

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	地域作業療法学	科目名	地域作業療法学技術論
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 非常勤講師				
授業方法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15回(30時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に携わった経験を持つ教員が、地域における生活課題に対して、プロジェクトベースドラーニングを用いて、課題解決能力や技術の習得ができるように指導する。				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議より明らかになった地域課題をグループでプロジェクトベースドラーニングを用いて考察・検証・プレゼンテーションを行う ・e-スポーツは非常勤講師による講義と実践を行う 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議より明らかになった地域課題を明確にすることができる ・地域課題をグループで検証し、プレゼンテーションを行うことができる ・e-スポーツを通して、障がい者や高齢者が地域で生きがいを持って生活をおくれる社会の構築を考えることができる 				
成績評価の方法と基準	課題レポート(80%) ポートフォリオ(20%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回数	授 業 内 容				担当講師
第1回	プロジェクトベースドラーニングについてオリエンテーション 学院の生活環境を考える				田河和代
第2回	地域課題を考える(考察)				〃
第3回	地域課題を考える(検証)				〃
第4回	地域課題を考える(検証)				〃
第5回	地域課題を考える(プレゼンテーション)				〃
第6回	地域に根差したe-スポーツって何?(e-スポーツの概要、活動内容紹介など)				非常勤講師 田河和代
第7回	地域に根差したe-スポーツって何?(福祉用具の説明・紹介など)				〃
第8回	e-スポーツ福祉用具を体験してみよう!				〃
第9回	障がい者プレイヤーとの交流				〃
第10回	e-スポーツの実践(高齢者サロンの体験・評価)				〃
第11回	e-スポーツの実践(高齢者サロンの体験・評価)				〃
第12回	地域課題を考える(考察)				田河和代
第13回	地域課題を考える(検証)				〃
第14回	地域課題を考える(検証)				〃
第15回	地域課題を考える(プレゼンテーション)				〃

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	臨床実習	科目名	評価実習 I (身体機能系)
代表講師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院) 実習指導者				
授業方法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期 (120 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な評価技能を身につけるため、病院・施設等の臨床現場において、実習指導者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。				
授業概要	作業療法対象者の生活を送る上での機能障害・活動制限・参加成約等を把握し、全体像を捉えるために必要な評価方法を臨床場面で習得する。また評価結果から適切な作業療法計画を立案することを本実習の主な目的とする。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図る。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての常識的態度を身につける 2. 責任ある行動を身につける 3. 自己管理ができる 4. 意欲的に取り組む姿勢 (探求心・創造性) を身につける 5. 作業療法評価計画を立てることができる 6. 情報収集・面接・観察・検査測定ができる 7. 評価結果を整理し全体像を把握することができる 8. 目標を設定することができる 9. 治療プログラムを立案することができる 10. 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる 11. リスク管理について理解できる 12. 記録文書 (電子データ含む) の管理が適切にできる 13. 他部門 (他職種) との連携がとれる 14. 施設の特徴について理解できる 				
成績評価の方法と基準	臨床教育者 (CE) による学生の実習経験状況評価 (25%)、OSCE (客観的臨床能力試験) (20%)、成果試験 (15%)、症例報告 (5%)、実習ポートフォリオ (35%)				
テキスト・教材等	特になし				
期 間	授 業 内 容				
3 週間	<p>評価実習 I (身体機能系) 〈期間〉 2023 年 10 月 23 日 (月) ~ 11 月 11 日 (土) または 2023 年 11 月 20 日 (月) ~ 12 月 9 日 (土)</p> <p>〈実習方法〉 学外実習施設のスケジュールに従った実習</p> <p>〈学習内容〉 ①オリエンテーション ②担当予定の症例紹介および評価開始 ③リハビリテーション (または作業療法) 部門の見学等 ④その他 (他部門の見学、担当症例の評価レポート作成、他の作業療法対象者の部分的評価体験) ⑤対象者の OT 評価 ⑥ OT 評価結果のまとめ ⑦ OT 評価結果からの課題焦点化 ⑧ OT プログラムの立案</p> <p>〈その他〉 ・必要に応じた課題提出 ・施設内勉強会への参加</p>				

学 科	作業療法学科 3年次	教育 内容	臨床実習	科目名	評価実習Ⅱ（精神機能系）
代表講師	田 河 和 代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 実習指導者				
授業方法	実 習	単位数	3	学期・回数	後期（120時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な評価技能を身につけるため、病院・施設等の臨床現場において、実習指導者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。				
授業概要	作業療法対象者の生活を送る上での機能障害・活動制限・参加成約等を把握し、全体像を捉えるために必要な評価方法を臨床場面で習得する。また評価結果から適切な作業療法計画を立案することを本実習の主な目的とする。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図る。				
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 職業人としての常識的態度を身につける 2. 責任ある行動を身につける 3. 自己管理ができる 4. 意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）を身につける 5. 作業療法評価計画を立てることができる 6. 情報収集・面接・観察・検査測定ができる 7. 評価結果を整理し全体像を把握することができる 8. 目標を設定することができる 9. 治療プログラムを立案することができる 10. 治療器具・道具を安全に使用し管理ができる 11. リスク管理について理解できる 12. 記録文書（電子データ含む）の管理が適切にできる 13. 他部門（他職種）との連携がとれる 14. 施設の特徴について理解できる 				
成績評価の方法と基準	臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価（25%）、OSCE（客観的臨床能力試験）（20%）、成果試験（15%）、症例報告（5%）、実習ポートフォリオ（35%）				
テキスト・教材等	特になし				
期 間	授 業 内 容				
3週間	<p>評価実習Ⅱ （精神機能系） 〈期間〉 2023年10月23日（月）～11月11日（土）または 2023年11月20日（月）～12月9日（土）</p> <p>〈実習方法〉 学外実習施設のスケジュールに従った実習</p> <p>〈学習内容〉 ①オリエンテーション ②担当予定の症例紹介および評価開始 ③リハビリテーション（または作業療法）部門の見学等 ④その他（他部門の見学、担当症例の評価レポート作成、他の作業療法対象者の部分的評価体験） ⑤対象者の OT 評価 ⑥ OT 評価結果のまとめ ⑦ OT 評価結果からの課題焦点化 ⑧ OT プログラムの立案</p> <p>〈その他〉 ・必要に応じた課題提出 ・施設内勉強会への参加</p>				